



シクロクロス

# 全日本選手権大会男子大会

— フォトリポート —

自転車オフロードレース・シクロクロスの日本一を決める「第25回シクロクロス全日本選手権大会内子大会」(公益財団法人日本自転車競技連盟主催)が12月7・8の両日、豊秋河原の特設コースで行われました。四国初開催の大会に、全国から約230人の選手が集まり熱戦を繰り広げました。レースの様子を写真で紹介します。

「男子エリート」で優勝し、両腕を高々と上げた前田公平選手(右)



5\_あまりの急こう配で「激坂区間」と呼ばれていた難所だが、一流アスリートは乗ったまま通過 6\_階段は自転車を持って駆け上がる 7\_エリート男子。ゴール前の熾烈な争いに観客は釘付け 8\_男子マスターズ50-59で入賞し、喜びを分かち合う 9\_内子町で日本チャンピオンになった選手の皆さん



1\_全力でスタートする選手たち。迫力あるシーンに歓声上がる 2\_小田川の河川敷を駆け抜ける 3\_入賞した愛媛県の選手に声援を送る 4\_実況中継でレースを盛り上げるMCのアケさん

新しい風を吹き込みました。で、内子町にシクロクロス連覇を達成。素晴らしい走り、素晴らしい走り、栄冠を勝ち取り、こちらも2日間で一番の歓声が沸き起こります。スピード勝負を制したのは前田選手。見事、大会連覇を達成しました。

女子エリートは序盤から独走を決めた松本璃奈選手が、2日間、ゴール前では前回王者の前田公平選手と竹之内悠選手の激しい漕ぎ合いに――。

苦しみました。日本最高峰の「エリート男子」には、69人が出場。圧巻のスピードと脚力で沿道に押し寄せた観客を魅了しました。勝負が最後まで分らない展開で、ゴール前では前回王者の前田公平選手と竹之内悠選手の激しい漕ぎ合いに――。

と説明しました。今大会のコースは、河原だけでなく、役場前の県道56号線も走る1周2.5キロのコース。スピードが要求される公道、河川敷の悪路、土手の急こう配を利用した「激坂区間」など、さまざまな難所が選手を苦しめました。

の出場経験もある三船さんは「内子大会のコースは、世界に通用する非常にハイレベルなものになった。シクロクロスの全ての技術が要求される」と説明しました。

# 全国の猛者たちが内子を激走

## Cyclo-cross Championships

